

図表 II- 24 「科学技術基本計画」の推移・概要

	第 1 期科学技術基本計画 1996 年～2000 年度 1996 年 7 月 2 日	第 2 期科学技術基本計画 2001 年～2005 年度 2001 年 3 月 30 日	第 3 期科学技術基本計画 2006 年～2010 年度 2006 年 3 月 28 日
理 念 目 標	<p>1. 活力ある豊かな国民生活を実現～独創的・革新的な技術の創成に資する科学技術の研究開発を推進</p> <p>2. 人間が地球・自然と共存しつつ持続的に発展することを可能とする～地球規模の諸問題の解決に資する科学技術の研究開発を推進</p> <p>3. 生活者のニーズに対応し、安心して暮らせる潤いのある社会を構築～健康増進、疾病予防・克服、災害防止等の諸課題の解決に資する科学技術の研究開発を推進</p> <p><<目標は特になし>></p>	<p>1. 知の創造と活用により世界に貢献できる国の実現に向けて～新しい知の創造</p> <p>2. 国際競争力があり持続的発展ができる国の実現に向けて～知による活力の創出</p> <p>3. 安心・安全で質の高い生活のできる国の実現に向けて～知による豊かな社会の創生</p> <p><<目標は特になし>></p> <p>理念 1 ◆目標 1 飛躍知の発見・発明 ～ 未来を切り拓く多様な知識の蓄積・創造 (1) 新しい原理・現象の発見・解明 (2) 非連続な技術革新の源泉となる知識の創造</p> <p>◆目標 2 科学技術の限界突破 ～ 人類の夢への挑戦と実現 (3) 世界最高水準のプロジェクトによる科学技術の牽引</p> <p>理念 2 ◆目標 3 環境と経済の両立 ～ 環境と経済を両立し持続可能な発展を実現 (4) 地球温暖化・エネルギー問題の克服 (5) 環境と調和する循環型社会の実現</p> <p>◆目標 4 イノベーター日本 ～ 革新を続ける強靱な経済・産業を実現 (6) 世界を魅了するユビキタスネット社会の実現 (7) ものづくりナンバーワン国家の実現 (8) 科学技術により世界を勝ち抜く産業競争力の強化</p> <p>理念 3 ◆目標 5 生涯はつらつ生活 ～ 子どもから高齢者まで健康な日本を実現 (9) 国民を悩ます病の克服 (10) 誰もが元気に暮らせる社会の実現</p> <p>◆目標 6 安全が誇りとなる国 ～ 世界一安全な国・日本を実現 (11) 国土と社会の安全確保 (12) 暮らしの安全確保</p>	<p>左記の前期計画の掲げる 3 つの理念を基本的に継承した上で、それぞれの理念を実現するための目標として 6 つの大目標、12 の中目標を設定。</p>
戦 略 ・ 施 策	<p>I. 研究者等の養成・確保と研究開発システムの整備等</p> <p>(1) 研究者及び研究支援者の養成・確保</p> <p>(2) 研究開発システムの整備</p> <p>(3) 各種評価の実施</p> <p>II. 研究開発基盤の整備・充実</p> <p>(1) 研究開発施設・設備の整備</p> <p>(2) 研究開発に関する情報化の促進</p> <p>(3) 知的基盤の整備</p> <p>III. 多面的な研究資金の拡充</p> <p>(1) 競争的資金の拡充</p> <p>(2) 多様な研究開発の推進のための重点的資金の拡充</p> <p>(3) 基盤的資金の充実</p> <p>IV. 私立大学における研究の充実</p> <p>V. 民間の研究開発の促進と国等の研究開発の成果の活用</p> <p>(1) 民間の研究開発の促進</p> <p>(2) 国等の研究開発の成果の活用</p> <p>VI. 国際的な交流等の促進</p> <p>(1) 主導的・主体的な国際共同研究開発の推進</p> <p>(2) 開発途上国等との科学技術協力の拡充</p> <p>(3) 国際的な科学技術活動の強化のための環境の整備</p> <p>VII. 地域における科学技術の振興</p> <p>VIII. 科学技術に関する学習の振興及び理解の増進と関心の喚起</p> <p>(1) 学校教育における理科教育・技教育の充実</p> <p>(2) 科学技術に親しむ多様な機会の提供</p> <p>(3) 科学技術に関する理解の増進と関心の喚起</p>	<p>I. 科学技術の戦略的重点化</p> <p>1. 基礎研究の推進</p> <p>2. 国家的・社会的課題に対応した研究開発の重点化</p> <p>(1) ライフサイエンス分野</p> <p>(2) 情報通信分野</p> <p>(3) 環境分野</p> <p>(4) ナノテクノロジー・材料分野</p> <p>(5) エネルギー分野</p> <p>(6) 製造技術分野</p> <p>(7) 社会基盤分野</p> <p>(8) フロンティア分野</p> <p>3. 急速に発展し得る領域への対応</p> <p>II. 優れた成果の創出・活用のための科学技術システム改革</p> <p>1. 研究開発システムの改革</p> <p>2. 産業技術力の強化と産学官連携の仕組みの改革</p> <p>3. 地域における科学技術振興のための環境整備</p> <p>4. 優れた科学技術関係人材の養成とそのための科学技術に関する教育の改革</p> <p>5. 科学技術活動についての社会とのチャンネルの構築</p> <p>6. 科学技術に関する倫理と社会的責任</p> <p>7. 科学技術振興のための基盤の整備</p> <p>III. 科学技術活動の国際化の推進</p> <p>1. 主体的な国際協力活動の展開</p> <p>2. 国際的な情報発信力の強化</p> <p>3. 国内の研究環境の国際化</p>	<p>第 2 章 科学技術の戦略的重点化</p> <p>1. 基礎研究の推進</p> <p>2. 政策課題対応型研究開発における重点化</p> <p>(1) 「重点推進 4 分野」及び「推進 4 分野」</p> <p>(2) 分野別推進戦略の策定</p> <p>(3) 「戦略重点科学技術」の選定</p> <p>3. 分野別推進戦略の策定及び実施に当たり考慮すべき事項</p> <p>(1) 新興領域・融合領域への対応</p> <p>(2) 政策目標との関係の明確化及び研究開発目標の設定</p> <p>(3) 戦略重点科学技術に係る横断的な配慮事項</p> <p>(4) 分野別推進戦略の効果的な実施 ～ 「活かした戦略」の実現</p> <p>第 3 章 科学技術システム改革</p> <p>1. 人材の育成、確保、活躍の促進</p> <p>2. 科学の発展と絶えざるイノベーションの創出</p> <p>3. 科学技術振興のための基盤の強化</p> <p>4. 国際活動の戦略的推進</p> <p>第 4 章 社会・国民に支持される科学技術</p> <p>1. 科学技術が及ぼす倫理的・法的・社会的課題への責任ある取組</p> <p>2. 科学技術に関する説明責任と情報発信の強化</p> <p>3. 科学技術に関する国民意識の醸成</p> <p>4. 国民の科学技術への主体的な参加の促進</p>